

ホザキノフサモ
M. spicatum L.
 オオフサモ
M. aquaticum (Velloso) Verdcourt
 ミツガシワ科
 アサザ [VU]*
Nymphoides peltata (Gmel.) O.Kuntze
 ガガブタ [VU]*
N. indica (L.) O. Kuntze
 ミツガシワ*
Menyanthes trifoliata L.
 アワゴケ科
 ミズハコベ
Callitriche verna L.
 ゴマノハグサ科
 キクモ
Limnophila sessiliflora Blume

ウキアゼナ
Bacopa rotundifolia (Michx.) Wettstein
 ヒシモドキ科
 ヒシモドキ [CR]*
Trapella sinensis Oliver
 タヌキモ科
 タヌキモ [VU]*
Utricularia vulgaris L. var. *japonica*
 (Makino) Tamura
 イヌタヌキモ
U. australis R. Br.
 ノタヌキモ*
U. aurea Lour.
 ヒメタヌキモ [VU]*
U. minor L.
 ミカワタヌキモ [EN]*
U. exoleta R. Br.

○『広島市の生物—まもりたい生命の営み—』

(広島市環境局環境企画課発行, 2000年3月, A4版 307p., 非売品)

広島市のレッドデータブックということであるが、単に絶滅危惧種をリストアップするにとどまらず、今後の野生生物の保護に資するようにさまざまな工夫がある。文献・標本などの基礎資料と現地調査に基づいて広島市野生生物目録を整理し、それらの種の近年の生育・生息情報からこの「レッドデータブック」に登載する種を選定している。絶滅のおそれのある種だけでなく、特異な環境や二次的自然を維持する上で注目すべき「環境指標種」が選定され、その選定の作業プロセス(基準)も明快である。

本書の対象は植物、動物とも広範な分類群にわたるが、種子植物とシダ植物に限ると同市に産する2,288種のうち「絶滅」もしくは「絶滅のおそれのあるもの」として選定されたのは86種(3.8%)と、きわめて絞り込んだものとなってい

る。これらの種については生育地や現状について半ページをとって簡単な解説と市内の分布図が付されている(但し、分布については「種の保護のために公表しません」という扱いになっている種が多い)。絶滅種10種のうち5種までが水草(カワツルモ、イトクズモ、ミズワラビ、デンジソウ、サンショウモ)であるのをみると、ここでも水域や湿地の植物が危機的状況にさらされてきたことがわかる。

巻頭には31枚のカラーグラビア、後半には「地域の自然」として里山や塩湿地などの現状や保全の考え方をまとめている。また各所にはさまれた多くのコラムが、内容のある読み物になっている。このコラムを含め、本書をまとめた方々の考え方が生かされた内容になっていることを評価するとともに、基礎資料が比較的充実していた地域とはいえ、短期間でこれだけのものをまとめられた「生物調査団」の皆さんに敬意を表したい。

(角野康郎)